

突如として起こった「中国・瀋陽総領事館事件」、複雑化しつつありますが、日本の中国投資が激増している時だけに、うまく落としどころを見つけてほしいものです。日本がアジアの中で、過去どんな役割を果たしてきたかを検証するなかで、21世紀、アジアと日本のあるべき姿を探る深田さんの講演です。アジア諸国を欧米の植民地から解放した事実は誇るべきものでしょう。

- *戦後 50 年経った今、第二次大戦に対する正しい評価を検証する時期にきていると思う。例えば、侵略。中国に対してはぬぐい難い側面があるのは否定しないが、他のアジア諸国には植民地解放を支援した、そのことは評価されても良い筈だ。その典型はインド。独立運動のリーダー、チャンドラ・ボースを日本政府は全面的に支援した。
- *彼の哲学は「敵の敵は味方」、「宗主国、英国と戦う日本は味方」を一貫して通した。終戦時に飛行機事故に遭い死ぬが、その直前、四国の松山で日本の陸軍将校に語った言葉「日本はアジア解放の十字軍であり、非常に立派な戦いをした。君たちは悔やんではいけない」。アジア解放という大義もはや日本人の頭から消去されているが。
- *オランダの植民地だったインドネシア。11年の流刑を終えジャカルタに戻ったスカルノだが依然、軟禁状態。ある朝、日本軍の戦車が轟音を響かせてやってきた。隊長中尉がフランス語で言う「スカルノさんいらっしゃいますか？ 今村均将軍がお待ちしております」。これをきっかけにインドネシアは独立に向けて大きく踏み出した。
- *マレーシア、ミャンマーも英国の植民地。マレー半島は錫とゴムの産地。前者は中国人、後者は中国人とインドを使い、マレー人を山地へ追いやった。今も激しい「マレー人優遇政策」を続けているマハティールの情念がそこに籠っている。他方、日本には感謝、「日本を見習え」というルックイースト政策をとり留学生を送り込んでいる。
- *日本兵との親密さを描いた映画「ビルマの豎琴」で有名なミャンマー。名産のチーク材欲しさに英国はビルマ王国に戦争を吹っかけ占領、王族を虐殺してしまう。その恨みは今も消えていない。だから、今もあの映画を観てミャンマー人は泣く。また、敗戦で逃走中、イラワジ川に舟を出し渡れないでいた大勢の日本兵を救ってくれたのだ。
- *欧米の植民地支配は東インド会社に代表されるように、資源奪取が目的だったが、アジアでは日本だけが免れた。オランダは「銀、絹」の日本を虎視眈々と狙っていたが、幕府によって長崎の出島に押し止められる。逆に、日本は医学をはじめ洋学の知識を導入する。早大の大隈重信、慶大の福沢諭吉も少年時代、長崎の宣教師に学んでいる。
- *では、日本の植民地政策はどうであったか。私は世界に誇るべき植民地行政だったと思う。特に台湾、李登輝氏の「台湾が幸福だったのは、日本が次々と理想主義者を送り込んできたからだ」という一言に尽きる。後藤新平、明石元治郎、新渡戸稲造、蓬萊米開発の英雄と崇められた磯栄吉、灌漑用水の八田陽一…実に多士済済であった。
- *銅像で有名になった八田陽一（福井県出身、東大工学部卒）は弱冠 30 歳で台湾に渡りダムと灌漑水路を造る。その長さは万里の長城の 6 倍、愛知用水の 16 倍といわれる。これによって台湾の土地が甦り、凶作はなくなった。その後、彼は戦死。夫人も夫が造ったダムに飛び込んで自殺する。そのダムの辺に八田の銅像を台湾人が建てた。
- *明日のアジアはどうか。中国人の安い賃金は半永久的に変わらないだろう。内陸から沿海部へ来る人の労働許可証、その期限は 3 年だ。3 年後に奥地へ帰らなければならない。いわば「初任給」が永久に続くようなもの。また 13 億人の巨大市場というが、11 億人が貧困だ。生産基地としては妙味があるが、消費市場としては意味がない。
- *「21 世紀は 15 億人のイスラムの世紀になるかも」という危機感から欧州に EU が生まれた。イスラムに詳しい小池百合子さんは言う「トルコやヨルダンが民主化され、選挙をすると第一党はすべてイスラム政党が取ってしまう」。「アジアも同盟を組んでイスラムに対抗しないとえらいことになる」が、明日のアジアに対する私の懸念だ。

連日の如く見せつけられる瀋陽総領事館前の TV 映像、いろんな意味で凄惨な時代になったと思わざるを得ない。それにしても毅然として主張する中国に対し、日本の対応はどうも心もとない。治にいて乱を忘れず…政治も経営も「危機管理」の大切さを痛感させられます。(5.16・石井拝)